

UPX-2000をお使いのお客さまへ

お買い上げいただいたUPX-2000は、付属の取扱説明書に記載されている機能の他にいくつかの機能が追加されています。取扱説明書と合わせて本書もよくお読みになり、取扱説明書と一緒に保管しておいてください。

メニュー操作にカラーガイド機能を追加

メニュー操作の項目に“COLOR GUIDE:”が追加になりました。B/W / COLORボタンでCOLを選択している場合は、メニュー操作画面で設定を変更してEXECボタンを押すと、“COLOR GUIDE:”が表示されます。



“COLOR GUIDE:”は、登録されているメニューの調整値を呼び出したとき、登録した内容を修正したとき、また呼び出した内容をコピーするときにも表示されます。

カラーガイドをプリントする

調整したい画像をカメラの液晶画面に表示させた状態で、カメラをステーションに接続してください。

“COLOR GUIDE:”が液晶画面に表示されているときに、◀または▶ボタンを押してプリントしたいカラーガイドを選択し、EXECボタンを押します。

CANCEL: 初期画面に戻ります。カラーガイドはプリントされません。

RGB: 色合い(RGB)調整用カラーガイドがプリントされます。

DLGm: 明暗トーン(DARK、LIGHT、GAMMA)調整用カラーガイドがプリントされます。

カラーガイド機能

カラーガイドは、7通りの画質の画像を1枚のプリント紙に配置してプリントする機能です。プリント紙の中央にはメニュー操作で画質を設定した画像があり、その周りには中央の設定値に対して画質を6通りに変化させた画像があります。

カラーガイドには色合い調整用と明暗トーン調整用の2種類がありますので、画質調整の目安としてお使いください。

ご注意

- カラーガイドを利用できるのは、ステーションでカラー(COLOR)を選んでいる場合のみです。
- 輪郭(SHARPNESS)のガイドはありません。

カラーガイドを画質調整に利用するには次のようにします。

プリント画の7通りの画像を比較して、最も希望に近い画像を探します。

その画像が満足できる画質であれば、その画像の下に表示されている設定値をメニュー操作で設定します。

満足できる画像がない場合には、希望に近い画像の設定値を参考にして次の設定値を設定します。再度カラーガイドをプリントすると、新しい設定値を中心にした7通りの画質でプリントされますので、希望の画質に近づけていくことができます。

このようにカラーガイドを利用すれば、より短い時間で希望の画質に調整することができ、インクリボンとプリント紙の節約にもなります。

色合い調整カラーガイド

まず、調整したい画像をカメラの液晶画面に表示した状態で、カメラをステーションに接続します。ステーションのメニュー操作をして液晶画面に"COLOR GUIDE:"を表示します。"RGB"を選んでEXECボタンを押すと、液晶画面に"TRANSFERRING IMAGE..","DO NOT REMOVE CAMERA"と表示され、カメラからステーションへのデータ転送が始まります。そして、約2分半後に色合い調整カラーガイドが排出されます。

色合い調整カラーガイド(下図参照)の中央には、現在の設定値による画像が配置されています。その周りには6通りの異なった画質の画像が配置されます。

これらの画像は、色合いに関する3種類の調整項目(CYN-RED、MAG-GRN、YEL-BLU)を、中央画の設定値に対してそれぞれ ± 3 だけ増減した画質になっています。各画像の下には3項目の設定値が表示されており、調整可能な範囲は ± 7 です。

色合い調整の操作例

現在のメニュー設定値が(CYN-RED、MAG-GRN、YEL-BLU)=(0、0、0)の場合：
中央画の設定値は(0、0、0)です。

周囲の6画像は下図(左)のように、それぞれ ± 3 した値でプリントされます。

この中で(-3、0、0)の画像が希望に近い画質であるが、もう少し赤みを減らしたいという場合：

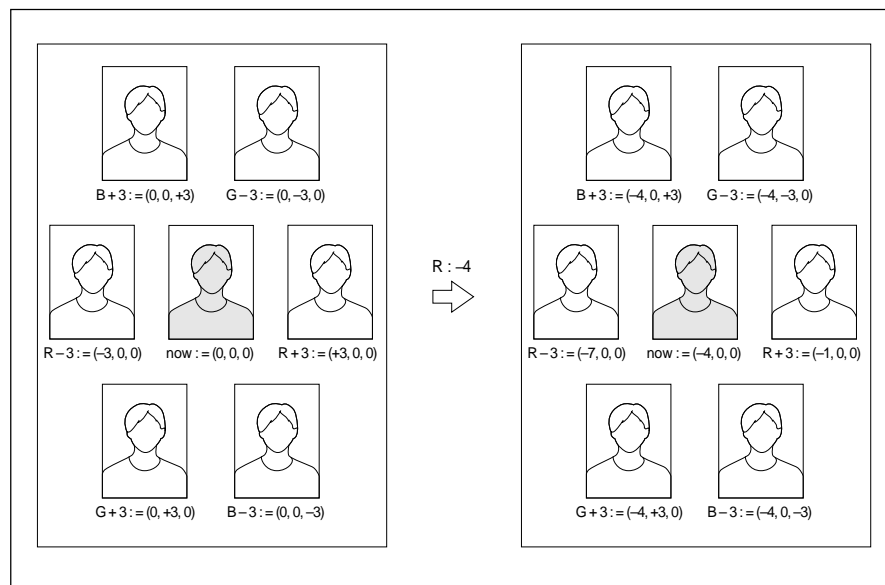
メニュー設定で例えば(-4、0、0)と設定し、再度カラーガイドをプリントします。

今度は中央画の設定値が(-4、0、0)となります。

周囲の6画像は下図(右)のように、(-4、0、0)からそれぞれ ± 3 した値でプリントされます。

この中で満足できる画像が見つければ、その値をメニュー設定して調整完了です。

満足できる画像がない場合は、再度メニュー設定をしてカラーガイドをプリントしてください。



明暗トーンカラーガイド

まず、調整したい画像をカメラの液晶画面に表示した状態で、カメラをステーションに接続します。ステーションのメニュー操作をして液晶画面に"COLOR GUIDE:"を表示します。"DLGm"を選んでEXECボタンを押すと、液晶画面に"TRANSFERRING IMAGE..","DO NOT REMOVE CAMERA"と表示され、カメラからステーションへのデータ転送が始まります。そして、約2分半後に明暗トーン調整カラーガイドが排出されます。

明暗トーン調整カラーガイド(下図参照)の中央には、現在の設定値による画像が配置されています。その周りには6通りの異なった画質の画像が配置されます。これらの画像は、色合いに関する3種類の調整項目(DARK、LIGHT、GAMMA)を、中央画の設定値に対してそれぞれ ± 3 だけ増減した画質になっています。各画像の下には3項目の設定値が表示されており、調整可能な範囲は ± 7 です。

明暗トーン調整の操作例

現在のメニュー設定値が(DARK、LIGHT、GAMMA)=(0、0、0)の場合:

中央画の設定値は(0、0、0)です。

周囲の6画像は下図(左)のように、それぞれ ± 3 した値でプリントされます。

この中で(-3、0、0)の画像が希望に近い画質であるが少し行き過ぎという場合:

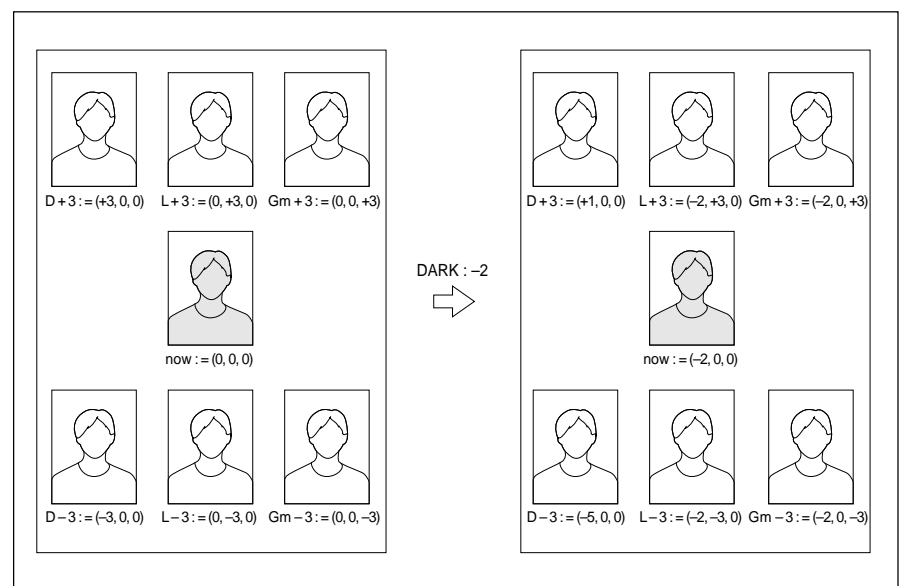
メニュー設定で例えば(-2、0、0)と設定し、再度カラーガイドをプリントします。

今度は中央画の設定値が(-2、0、0)となります。

周囲の6画像は下図(右)のように、(-2、0、0)からそれぞれ ± 3 した値でプリントされます。

この中で満足できる画像が見つければ、その値をメニュー設定して調整完了です。

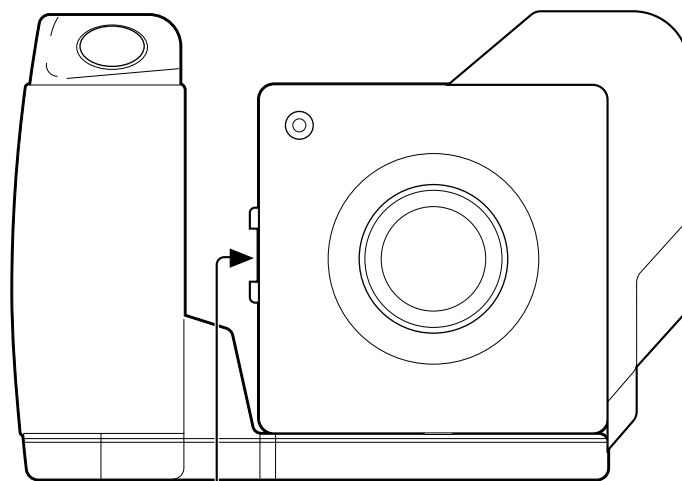
満足できる画像がない場合は、再度メニュー設定をしてカラーガイドをプリントしてください。



カラー画像の色調 (RED / GREEN / BLUE) の調節に説明を追記

調整する項目	画像の色調	押すボタン	調節
CYN-RED	赤味がかかった画像にする。 青味がかかった感じを除く。	⇨	RED の方向
	シアン (水色) がかった画像にする。 空や背景の青を濃くする。	⇨	CYN (CYAN の略) の方向
MAG-GRN	緑がかかった画像にする。 肌の赤やピンクを除く。	⇨	GRN (GREEN の略) の方向
	マゼンダ (ピンク) がかった画像にする。 唇の赤やピンクを濃くする。	⇨	MAG (MAGENTA の略) の方向
YEL-BLU	青味がかかった画像にする。 黄色味を除く。	⇨	BLU (BLUE の略) の方向
	黄色味がかかった画像にする。 黄色を濃くする。	⇨	YEL (YELLOW の略) の方向

カメラにフランジバック調整ネジを追加



フランジバック調整ネジ
レンズを交換したとき、フランジバックを調整します。